

漁海況旬報

No. 14 - 27

ちば

平成14年9月27日発行

千葉県水産情報通信センター
千葉県水産研究センター

房総沖スルメイカ秋漁(10~12月漁期)の漁況予測

北海道区水産研究所は太平洋側の各道県水産試験研究機関の情報をもとに「平成14年度第2回太平洋イカ長期漁況予報」をとりまとめ9月26日に発表しました。今期予測の対象となるのは、2002年春季に太平洋海域に加入した冬季発生群です。予測海域は常磐以北の太平洋海域ですが、これからの房総沖の秋イカ漁はこの海域からの南下群と深い関わりがありますので、発表された内容と今後の見通しについてお知らせします。

【太平洋側の漁況経過】

今年7月に開催された第1回太平洋イカ長期漁況予報では、8~9月の常磐以北の北部太平洋漁場でのスルメイカ来遊量は、常磐~三陸海域では2001年をやや下回り、道東海域及び大畑~道南海域では2001年を下回る来遊量と予測されていました。5~8月の高知以北太平洋側の主要港でのスルメイカ漁獲量(釣, 定置網, 底曳網等による生鮮)は26,734トンであり、2001年同期の23,717トンをやや上回っています。

各地域での漁獲量の対前年比は、常磐では42%, 三陸では88%, 大畑・道南では118%, 道東では19%となり海域ごとの漁獲量の増減に差がでています。また、漁場一斉調査(8月下旬~9月上旬)によれば三陸~道東周辺海域までの各沿岸域ではスルメイカの漁獲が認められ、とくに道南の沿岸では高いCPUE(尾/台/機)を示す地点も多く存在しました。2001年との比較では、道東海域でのCPUEの減少と沖合海域でのCPUEの増加が特徴的でした。三陸・北海道太平洋海域の平均CPUE2.79は2001年(6.53)の43%で、1996年以降1999年の0.66, 1998年の2.63に次ぐ低い水準でした。

【まき網による情報】

スルメイカは平成10年からTAC(漁獲可能量:2002年は全国で53万トン,まき網で1.6万トン)魚種に指定されました。太平洋北部のスルメイカの漁獲は昨年(8月6日)より早く7月31日から三陸北部で漁獲され始めてから、9月中旬に入っても漁獲が続いています。この間の漁獲量は約13,300トンです。これは昨年同期(約7,800トン)の漁獲量の約1.7倍となっています。

【房総沖の漁況経過】

今年も5月末まで外房沖でカツオ曳縄漁が行われていましたが、終漁してすぐイカ漁に切り替わりました。勝浦沖では5月29日に数隻が出漁し6月上旬には各船が勝浦沖でスルメイカを対象とした操業になりました。5月下旬では小型魚主体の初漁(120~300kg/隻)がありました。その後、6月上旬には150kg前後の漁況となっており、初漁としては好調なスタートを切りました。7月は中旬以降、台風による時化が続き、出漁できない日が多くなりました。8月は、黒潮が接岸傾向で潮が速いことが多くCPUEが12~146kg/隻と安定せず、さらに中旬以降、漁況が低調に推移したことからカツオの曳き縄漁に転換する船もありました。9月に入っても依然同じような状況が続いています。このため初漁(5月末)~9月中旬までの漁獲量は、昨年同期(35トン)を上回り46トンとなっていますが、CPUEは93kg/日・隻と昨年同期(127kg/日・隻)を下回っています。(図1)

漁場は、例年潮の流れによって、銚子沖と勝浦沖に形成されますが、今夏の漁期は、銚子沖の潮が早いことが多かったため、6月に一時的にミゾ場に漁場が形成された時を

除き、勝浦沖が主漁場となっています。

当センターの第二ふさみ丸は9月25日から、野島埼沖から銚子沖までイカ漁場調査を実施しました。潮が速く、イカの反応があっても漁獲は”型のみ”に終わっています。

漁期初めの魚体は、外套背長22~25cmの小・中型個体でしたが、8月は外套背長22~27cmと大型イカの割合が増加してきました。生殖腺熟度は、7月は、雌雄ともに半数以上が中~完熟でした。8月以降、漁が低調のため成熟については調査できませんでしたが、例年9月にはいると、成熟が進み、中熟~完熟個体が70~90%を越えるようになります。

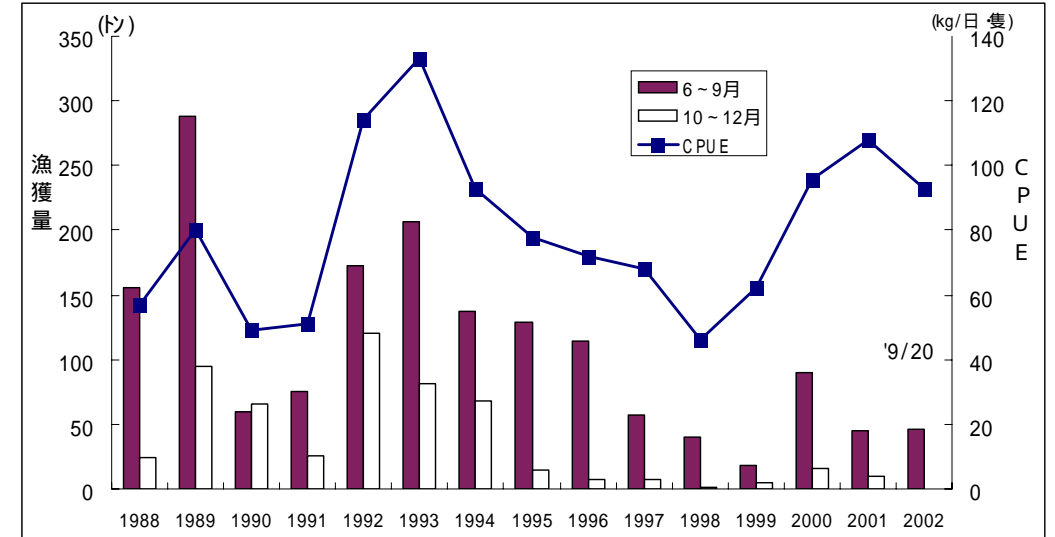


図1 2港の(天津・勝浦)漁獲量とCPUE

【秋漁(10~12月)の予測】

来遊量: 昨年より低い水準

魚体: 外套長25~27cmの中・大型イカ主体

漁場: 勝浦沖が中心となる

漁獲量: 近年の低い水準にとどまる

【予測の説明】

房総沖のスルメイカの秋漁は、道東・東北海域からの南下群の動向と深く関係しています。長期漁況予報では東北海域の来遊量は昨年を下回ると予測しています。漁獲動向をみても太平洋側では昨年より低調となっていることから、房総沖の秋イカ漁の来遊量水準も低く、昨年を下回るでしょう。

房総沖では黒潮がN型基調で接岸傾向となっています。現在、都井岬南東沖にある小蛇行が東進することにより、11~12月にかけて一時的に黒潮はB・C型になり離岸傾向となると予測されます。主漁場は勝浦沖で、11~12月中は銚子沖にも一時的に漁場形成されるでしょう。また、接岸傾向が強くと潮が速く漁は低調になる恐れがあります。魚体は外套長25cm以上の大型イカが主体となりますが、大型イカが来遊してくると漁況は低調になる傾向があります。また、10月からはキンメ漁が解禁となりますので、スルメイカの漁獲努力は大きく減少することから、漁獲量は近年の低水準にとどまるでしょう。

道東沖合の親潮南端部に集群しているスルメイカは津軽暖水及び黒潮系北上暖水の勢力が弱まるとともに東北近海域へ来遊し、順次房総沖へ南下回遊してくると予想されます。漁期後半(11~12月頃)に一時的な好漁が期待できますが、漁場形成は短いでしょう。また、南下群の漁況に大きく影響する親潮第一分枝は強勢に推移すると予測されており、今後の動向に注視してください。